

【旧約聖書日課】申命記 6章17～25節

¹⁷あなたたちの神、主が命じられた戒めと定めと掟をよく守り、¹⁸主の目にかなう正しいことを行いなさい。そうすれば、あなたは幸いを得、主があなたの先祖に誓われた良い土地に入って、それを取り、¹⁹主が約束されたとおり、あなたの前から敵をことごとく追い払うことができる。

²⁰将来、あなたの子が、「我々の神、主が命じられたこれらの定めと掟と法は何のためですか」と尋ねるときには、²¹あなたの子にこう答えなさい。

「我々はエジプトでファラオの奴隷であったが、主は力ある御手をもって我々をエジプトから導き出された。²²主は我々の目の前で、エジプトとファラオとその宮廷全体に対して大きな恐ろしいしるしと奇跡を行い、²³我々をそこから導き出し、我々の先祖に誓われたこの土地に導き入れ、それを我々に与えられた。²⁴主は我々にこれらの掟をすべて行うように命じ、我々の神、主を畏れるようにし、今日あるように、常に幸いに生きるようにしてくださった。²⁵我々が命じられたとおり、我々の神、主の御前で、この戒めをすべて忠実に行うよう注意するならば、我々は報いを受ける。」

【使徒書日課】ローマの信徒への手紙 10章5～17節

⁵モーセは、律法による義について、「掟を守る人は掟によって生きる」と記しています。⁶しかし、信仰による義については、こう述べられています。「心の中で『だれが天に上るか』と言ってはならない。」これは、キリストを引き降ろすことにほかなりません。⁷また、「『だれが底なしの淵に下るか』と言ってはならない。」これは、キリストを死者の中から引き上げることになります。⁸では、何とされているのだろうか。

「御言葉はあなたの近くにあり、
あなたの口、あなたの心にある。」

これは、わたしたちが宣べ伝えている信仰の言葉なのです。⁹口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。¹⁰実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。¹¹聖書にも、「主を信じる者は、だれも失望することがない」と書いてあります。¹²ユダヤ人とギリシア人の区別はなく、すべての人に同じ主がおられ、御自分を呼び求めるすべての人を豊かにお恵みになるからです。¹³「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」のです。

¹⁴ところで、信じたことのない方を、どうして呼び求められよう。聞いたことのない方を、どうして信じられよう。また、宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができよう。¹⁵遣わされないで、どうして宣べ伝えることができよう。

「良い知らせを伝える者の足は、なんと美しいことか」と書いてあるとおりです。¹⁶しかし、すべての人が福音に従ったわけではありません。イザヤは、「主よ、だれがわたしたちから聞いたことを信じましたか」と言っています。¹⁷実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。

【福音書日課】ヨハネによる福音書 3章1～15節

¹さて、ファリサイ派に属する、ニコデモという人がいた。ユダヤ人たちの議員であった。²ある夜、イエスのもとに来て言った。「ラビ、わたしどもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神が共におられるのでなければ、あなたのなされるようなしるしを、だれも行うことはできないからです。」³イエスは答えて言われた。「はっきり言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」⁴ニコデモは言った。「年をとった者が、どうして生まれることができますよう。もう一度母親の胎内に入って生まれることができるでしょうか。」⁵イエスはお答えになった。「はっきり言うておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。⁶肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。⁷『あなたがたは新たに生まれねばならない』とあなたに言ったことに、驚いてはならない。⁸風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。」⁹するとニコデモは、「どうして、そんなことがありますか」と言った。¹⁰イエスは答えて言われた。「あなたはイスラエルの教師でありながら、こんなことが分からないのか。¹¹はっきり言うておく。わたしたちは知っていることを語り、見たことを証しているのに、あなたがたはわたしたちの証しを受け入れない。¹²わたしが地上のことを話しても信じないとすれば、天上のことを話したところで、どうして信じるだろう。¹³天から降って来た者、すなわち人の子のほかには、天に上った者はだれもいない。¹⁴そして、モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。¹⁵それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである。」

新たに生まれる【こども説教のために】

主イエスの教えを受けるのに、昼間、弟子たちが集まっているところに堂々と参加することができず、夜になって一人密かに訪ねて来た者がありました。ニコデモも、そのような一人です。

彼は、ユダヤ人の間で議員として知られ、また教師（ラビ）として尊敬もされていた人だったようです。多くの人の上に立ち、また教えてきたニコデモは、最近になって知られるようになった「イエス」というラビが気になっていましたが、他の人たちの手前、恥ずかしかったのかもしれない。そのニコデモに、主イエスは、こんなことをお教えになったのです。

「人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」

ニコデモは驚きました、「年をとった者が、どうして…もう一度母親の胎内に入って生まれることができるでしょうか」と。もちろん、そんなことはできません。けれども、主イエスは言われるのです、「だれでも水と霊とによって生まれる」と。それは、「神の子」として生まれることなのです。「神の子」として生き始めることなのです。

風が吹くように神の霊が働かれていることを知るとき、人は、「神の子」として新たに生まれ、「神の国」の人として歩み始めることができるのです。

水と霊とによって

こども説教のためにこどもたちを礼拝堂の最前列に招くたびに、思うことがあります、あの前方の空席をどうにかできないか、と。以前、そこは、ご高齢の信者方によって埋められていたのです。車椅子でいらっしやっても、礼拝堂に入られるや否や、そこから降りて前方までスタスタと歩いて来られ、いつもの席にお座りになる方もありました。コロナ禍を経て、あの方々皆、天の主のもとにお出でになられた今、そこがいつも埋められるということはなくなっています。そこに居て、最前列に招かれるこどもたちを間近で見守ってくださるといふ方々がいらっしやったならば、こどもたちにとって、いいえ、わたしたち皆にとって、どれほどの励ましになることでしょうか。人生の最晩年を神の御前に進み出る者として全うされる方々がある。その方々が、たとえ直接何かを語ってくださることがなくても、その後ろ姿は、わたしたちがどのように人生を歩み、全うしたらよいかを、雄弁に語って聞かせてくださるものに他ならないからです。

先週、長野の教会の牧師からお電話をいただきました。弾んだ声で、うれしいお知らせがあるとお聞かせくださったのは、あるご高齢の方が洗礼を受けられたという報告でした。わたしたちの教会で礼拝の開始を告げるために4年前から鳴らしている鐘を、亡くなる直前に起草してくださったN姉のご夫君Kさんが、洗礼をお受けになられたのです。長野の教会は、その方が生まれ育った地の教会です。ご両親や親族方の多くがその教会の信者として生き、その教会の墓地に葬られてこられました。N姉も、葬儀は石神井教会で執り行いましたが、その長野の教会の墓地に葬られました。そもそも、N姉と結婚されたのも、両家が信者のご家庭だったからでしょう。けれども、学者としての道に進まれたKさんは、洗礼を受けて信者になることなく、晩年を迎えていらしたのです。N姉のご葬儀の後、Kさんから一度、「わたしも洗礼を受けたほうがよいのでしょうか」と尋ねられました。迷っていらしたのです。けれども、その後、長野の教会に墓参のためにお出でになられた際、牧師に志願を申し出られていたのです。そのときには即決できなかった牧師が、今回、再び墓参においでになられたKさんに志願の意志を確かめ、平日でしたが、その場で洗礼式を執り行ってくださったとのことでした。

主イエスのもとを夜、密かに訪ねたニコデモは、齢をとっていました。少なくとも、彼自身はそうのように自覚をしていたのでしょうか。今さら新しいことを始めるような年齢でもない。そう考えていたかもしれません。けれども、主イエスは、彼に勧められたのです。「だれでも、水と霊とによって新たに生まれることができる」と。「そうすべきだ」と。ニコデモは、そうしたのでしょう。その姿を、教会は伝えてきたのです。

御言葉はあなたの近くにある

主の日ごとに、神の御前に進み出る。その歩みを重ねて来られた皆さんの姿を、教会の礼拝堂で見ることができます。たとえここにお出でになることができなくなっても、それぞれの置かれた場所で、主の日ごとに神の御前に進み出る者として生きることはできるでしょう。実際、そうしてくださっている方々があることを、わたしたちは知っています。

主の日ごとに神の御前に進み出るとき、わたしたちは、繰り返し、新しくされています。「神の子」としての身分を更新している、と言ってもよいかもしれません。譬えて言えば、わたしたちは、「神の国」に国籍を持つ「神の子」としてのパスポートを発行してもらっているのです。

それを、どのように発行してもらったのか。教会は、洗礼によって発行していただいたと教えてきました。主イエスがそう命じ、教えてくださったと信じてきたのです。それがどのようにして可能なのか。「水と霊によって」と主イエスがお教えくださった以上のことを、わたしたちは知らないかもしれません。教会が執り行っているのは、水を用いた洗礼です。「父と子と聖霊の御名」によって洗礼が授けられるとき、わたしたちは、神の霊がその人に働いていると信じてきました。その人が洗礼を受け入れ、神を「アッバ、父よ」と呼ぶ（ローマ 8:15）ようにされるからです。

主の日ごとに神の御前に進み出るとき、そして機会あるごとに「主の食卓」からパンと杯を受けるとき、わたしたちは、「神の国」のパスポートを更新していただいているのです。この地上にある国を超えた「神の国」に国籍を持つ「神の子」として、その矜持をもって生きていく思いを新たにさせていただいているのです。その姿を、主の日ごとに共に神の御前に進み出る礼拝堂で、後に続く者の前に示すことができるならば、それは幸いなことです。

「神の子」とされた皆さん。主の御前で、「神の国」の言葉を用いましょう。いにしへの「神の子」らから受け継いできた「神の国」の言葉を、わたしたちも受け継いで用いましょう。それこそが、神と語り、「神の子」同士が語るための言葉なのです。「神の子」として、この言葉を聞き、教えられてきました。わたしたち自身が口にし、心に留めることができるほどに、この言葉に耳を傾けてきました。言葉は、語られなければ、聞かれません。文字に書かれ、読まれるだけの言葉では、わたしたちは、互いに十分なコミュニケーションを取ることはできないでしょう。言葉は、語られ、聞かれるのです。「神の国」の言葉は、神の御前に進み出た者たちと神との間で、語られ、聞かれるのです。その言葉によって、わたしたちは、日々、新たにされるでしょう。新たに生まれる者とされるでしょう。交わされる言葉の中に、神の霊は思いのままにお働きくださっているのです。